

農業の新しい技術

No. 599 (平成20年 7月)
分類コード 01 - 10
熊本県農林水産部

ク新品種「ほろたん」の特性

農業研究センター 果樹研究所落葉果樹研究室
担当者：岩谷章生

研究のねらい

ニホングりは、渋皮が剥がれにくく、加工に手間がかかることが消費低迷の原因となっている。そのため、本県に適応性の高い、渋皮剥皮性の優れるニホングリを選定し、本県クリの消費拡大とクリ産業の活性化を図る。

研究の成果

< 来 歴 >

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所により平成3年に「550-40」(「290-5」(「森早生」×「改良豊多摩」)×「国見」)に「丹沢」を交配して育成され、クリ第6回系統適応性・特性検定試験を経て、平成19年10月に品種登録された。

< 特 性 >

1. 電子レンジやオーブン等で加熱することにより、渋皮が果肉から容易に剥離する(写真1)。
2. 早生品種の中では果実は大きく、比重は高い(表1)。粉質で甘味、香気ともに多く、食味は良い。
3. 若木での収量は「丹沢」並みである。裂果は少ないが、虫害果が多い。腐敗果は「丹沢」並みで「国見」より少ない(表1)。
4. 収穫盛期は「丹沢」より5日程度遅く、「筑波」より2週間程度早い。「杉光」、「国見」とほぼ同時期で、本県での生産拡大が最も望まれる9月上旬である(表2)。
5. 樹姿は立ち性で、樹勢は中程度である。

普及上の留意点

1. 販売上、渋皮が容易に剥皮することが最大の利点となるため、他品種が混入してこの特長を損なわないよう、導入時には収穫期が重なる品種との混植や高接ぎは避ける。特に「国見」とは果皮の色つや、穂の形状が類似しており(写真3、4)、収穫期もほぼ同時期であるため、注意が必要である。
2. 年によりモモノゴマダラノメイガの被害が多くなるため、適期の防除が必要である。



写真1 「ぼろたん」と主要品種の渋皮剥皮性比較(電子レンジにより1分30秒加熱後手作業で剥皮)

表1 「ぼろたん」と主要早生品種の果実品質及び収量性比較

品種名	1果重 (g)	比重	裂果率 (果数%)	腐敗果率 (果数%)	虫害果率 (果数%)	7年生までの累積収量 (kg/ 樹)
丹沢	25.5	1.078	7.2	8.6	11.0	9.7
ぼろたん	28.8	1.088	1.1	8.8	20.5	10.2
国見	24.8	1.025	4.4	13.4	9.0	-
杉光	25.1	1.073	3.1	7.5	12.1	-

注)・丹沢「ぼろたん」は2003年に植栽、杉光」は同年に高接ぎした樹のそれぞれ3～7年目の平均値
 ・国見」は2003年に植栽した樹の3～5年目の平均値(6年目以降は樹勢低下のため調査中止)
 ・杉光」は「国見」中間台に高接ぎ

表2 「ぼろたん」と主要品種の収穫期比較

品種名	収穫期		
	始	盛	終
丹沢	8/20	8/30	9/5
ぼろたん	8/26	9/4	9/9
国見	8/25	9/2	9/6
杉光	8/25	9/3	9/13
筑波	9/11	9/20	9/30

注)・丹沢「国見」杉光」は表1と同じ

・筑波」は2003年に植栽した樹の3～5年目の平均値(6年目以降は樹勢低下のため調査中止)



写真2 「ぼろたん」の着穂状況



写真3 「ぼろたん」の穂果



写真4 「国見」の穂果